

第3回「富山型ウェルビーイング住宅（仮称）」検討委員会 議事要旨

日 時：令和6年11月15日午後3時30分～午後5時00分

場 所：富山県防災危機管理センター5F研修室5-A

出席者：川本座長、石田委員、炭谷委員、瀬川委員、高野委員、八木委員、好川委員
(座長除き五十音順)

1. 部長挨拶

2. 説 明 議題(1)：資料1に基づき米澤課長（建築住宅課）が説明。
議題(2)(3)：資料2、3、4に基づき松本副主幹（建築住宅課）が説明。
議題(4)：資料5に基づき松本副主幹が説明。
議題(5)：米澤課長が説明。

3. 質疑応答

- (座 長) それでは議事次第の議題(2)(3)について資料2、3、4をご説明いただきましたが、質問や意見がありませんか。
- (委 員) 「富山らしさ」というのが新しく追加されたが、この要件を自由選択でどれか一つ選ばないといけないが、この写真にあるような景観を形成している地域というのは、新築住宅が建ちにくいところ。
郊外の新しい住宅団地で新築住宅を建てる場合、「富山らしさ」の要件に適合させるには県産材を使うしかないような感じがするが、その辺りはどういうふうに運用するのか。
- (事 務 局) 郊外で新築が多いということなので、その場合は、伝統技術の活用か県産材の利用への適合になると思う。県産材では難しいということならば、伝統技術の活用でどこまでできるかということになるが、ここから選ぶことは難しいところもあるということか。
- (委 員) 自由選択という形にして、例えば努力義務にすれば良いのかなと思う。
- (委 員) 富山県人として、県民性を後押しするような制度にしても良いのかなと思う。富山らしさを後世に伝えるという意味で、住み続ける家ならそのような意識を持って少し配慮をすることをお願いしてもいいのかなと思う。
- (委 員) 八尾の石畳の町並みは市の補助で整備した。
多分、岩瀬も市から補助が出たはずで、この二つは補助により町並み景観を揃えた地域。確かに八尾の町並みとか岩瀬の町並みにおいて新築は多分大変だと思う。
家を建てようとする人達の主流は20代、30代なので、ここまで求める人は少ないと思う。だから県産材利用を積極的に進めるべきだと思う。
- (事 務 局) 若い方々が瓦を使わない住宅を求められるとすると、県産材の利用ということになるのかもしれないが、例えば、県産材の利用そのもののハードルが高いのか。

- (委 員) 構造材として活用すれば決して高くないと思う。
- (事 務 局) 県産材の利用は農林水産部の「とやまの木で家づくり支援事業」で最大 40 万円の支援をしている。ウェルビーイング住宅でも当然適用できるようにしていきたいと思っており、その意味では県産材の利用促進に繋がる。
- (座 長) 1 m³は仕上げ材に使うとするとどのくらい量になるのか。
- (委 員) 結構あると思う。
- (座 長) ハウスメーカーであれば、それ以外の仕上げ材を限定的に使うというのは結構ハードルが高いかなという感じはする。
- (森林政策課) 「とやまの木で家づくり支援事業」で 1 m³以上という記載は造作材、構造材、下地材どれでも全部で 1 m³使えばいいということで、これまでも支援を受けている住宅で最も多いのはやっぱり構造材。
下地材としての使用もあるが、造作材で 1 m³以上となると使いにくいので、全体で自由に使えるようにする方が施主や建築会社にとっては使いやすいと思う。
- (委 員) 仕上げ材にする場合の要件を m³ (立方メートル) ではなく m² (平方メートル) とし、二つ目の伝統技術の活用のところ、壁に県産材の仕上げ材を 8 m²以上使う等の要件を設けるとか、仕上げ材の使用をイメージしやすい基準として文字化し、選択できるようにすれば興味を持ってもらえるのではないかと。木製建具や造作の建具も木の材料を使って作ることも可能なので、もう少し視野を広げて、伝統技術の和の住まいの表現、富山らしい姿というふうにすればじっくりくるのではないかと。
- (事 務 局) 仕上げ材の使用について、面積での要件設定も検討させていただきたい。
- (委 員) 面積を要件とするのは良い案だと思うが、最初の二つの景観と伝統のところについて、この基準がはっきりしない。
どのくらいやった場合に「景観に調和している」とか、「伝統技術を活用している」になるのか疑問。
また景観というのも、昔からの街並みに合わせるのか、あるいは新しい住宅地の中で富山らしさというのはどういうものなのか、という議論もしないとわからなくなってくる。
- (事 務 局) どの様な要件が県内で取組みやすく流通しやすいのか、考えていきたいと思う。
- (座 長) 県産材を伝統技術の活用で仕上げとして盛り込んでいくのは良い方法だと思うが、委員の意見のように、直接的に富山らしさが表出しない景観の地域では、そこに建てる場合に基本事項が使えないのではないかと。それは排除するということができれば排除するので構わないが、普通の街並みのところに建てる場合には、排除するかしないかというのは大きな問題だと思うので検討してほしい。
「富山県カーボンニュートラル戦略」において、2030 年までに CO2 削減量について、今後「富山型ウェルビーイング住宅 (仮称)」が運用されていく中で、2030 年までにこの施策がどう機能していくかシミュレーションされているのか。カーボンニュートラルにどう寄与するか、全体の中でウェルビーイング住宅がどう寄与していくかを検討する必要があると思う。
ゾーン改修と全体改修では、80~90%位のゾーンを改修した場合に、全体改修の

数値が満たされればよいのか。

(事務局) 全体改修はフルリノベのイメージである。

(座長) 築10年、20年の次世代断熱の省エネ基準が満たされた住宅も今後は改修されていくと思うが、全体改修の数値を満たせばゾーン改修にならなくてもいいのかな、という感じもするが、どう取り扱うかというのを決めておいた方が良い。

(事務局) ゾーン改修は居間、風呂、トイレ等、一番動線の多い場所を改修することをイメージしており、80%で基準を満たした場合等は想定外であるので検討させていただきたい。

ゾーン改修については、富山県には大きな家が多く、断熱をする場合でも全体の断熱をすることは大事(おおごと)で、その意味でゾーンだけの断熱を推奨するのは富山型として有効だと思う。その意味で、全体改修の中に面積や率等についても検討させていただきたい。

(座長) 「バリアフリー配慮」について、性能表示制度の高齢者対策の等級2以上となっているが、これは等級3の方が良いのではないか。

(委員) 等級3程度は開口部の間口の規定がちょっと引かかるぐらいで基本的には容易だと思う。

(事務局) 検討させていただきたい。

(座長) それでは他いかがか。

(委員) 既存の部分改修はどんどん進めるべきだと考えているが、ご高齢の方は資金面などで改修が難しい場合がある。ゾーン改修で、居室と寝室と風呂と脱衣室等を改修して50歳、60歳、70歳のシニア世帯が暖かくて住みやすく健康になれるような住宅施策にもっと取り組んでほしい。

(事務局) 既存改修こそ富山県の家が大きいという特徴から生まれたものであるという点で、今後は増改築の方も力を入れていければと思う。

(委員) この全体改修の中に減築の分も含まれるのか。スケルトンにしながら減築すると、それも含まれるのか。

(事務局) 減築も対象にしたいと考えている。

断熱性を高めるために、減築してフルリノベするイメージはもっている。

(座長) では最後に議題5その他について。

事務局の方から説明をお願いする。

(事務局) ウェルビーイング住宅を今後は県内でいろいろ展開を図っていくにあたり、より訴求できるような名称で考えていきたいと思っており、委員の方々からキーワードにすべき言葉、表現などを出していただけたらと思う。

(座長) キーワードなどいかがか。

(委員) まず四つのがキーワードになり、「心身の健康」、「経済的なゆとり」「安心、心の余裕」、「思いやり」、このキーワードを組み合わせ、それを表現するチューリップの様なものができればいいと思う。

(委員) 今すぐそれを連想させるような、刺さるような言葉は思い浮かばないが、今までの意見を参考に考えたいと思う。

(座長) ご意見いかがか。

- (事務局) もし会議終了後に思い浮かぶことがあれば、事務局に連絡いただきたい。
この名称を使って今後工務店等の皆さんに活用してもらおう名称にしたいと考えており、その辺も念頭に置いていただきたい。
- (座長) 今後の展開、県としての今後の展開などを話していただきたい。
- (事務局) 「富山らしさ」のところ等、いただいたご意見について詳細を詰め、またお示しをさせていただきたい。「富山型ウェルビーイング住宅（仮称）」について、来年度以降本格的に普及していくこととなる。それに合わせロゴ等も作り、鳥取県や先進県の先例を見ながら普及できるように推進し、最終的にはこの様な支援制度を使いながら県内の工務店やハウスメーカーに利用してもらい、最終的にはそれが当たり前になり、この様な高性能な住宅を実装できるような形で普及できればというのが最終的な目標だと思っている。
- (委員) 「富山らしい～住宅」というような言葉の方が皆さんには入ってくるような気がする。何か高性能であるとか、日本語の方が分かりやすいような気がする。
- (座長) では、本日の検討委員会をこれで終了します。
熱心なご議論いただき、また議事進行にご協力いただきありがとうございました。
今日提示された新築住宅、既存住宅の性能水準が、これから富山県が推進する住宅の姿ということにきつくなっていくと思っており、今日いろいろご議論が集中したところであるが、「富山らしさ」についてはいろいろご意見もあり、その観点からもぜひ盛り込んでいただき、県のウェルビーイング住宅活用を進めていただきたいと思う。
- (事務局) ありがとうございました。各委員の方々には今後の相談となった結果について詳細にご説明させていただきます。

4. 閉 会